

オピニオン&フォーラム

余裕ない医療現場 英断求める

医師 井樋 栄二

(宮城県 65)

国内の1日あたりの新型コロナウイルス感染者数が18日、2万3千人を超えた。重症者は17日時点で1716人と6日連続で過去最多を更新した。東京五輪の前から予想はしていたが、急速な感染拡大に医療体制が追いついていない。菅義偉首相は、患者が酸素の投与を必要とする場合に対応する「酸素ステーション」を新設して対処するというが、多くの医療資源を要することになる。

24日に開幕するパラリンピックはすべての会場で一般客を入れないことになった。しかし、こんな非常事態下で果たして開催しているのか。大会には約7千人の医療従事者が動員される。一方、東京周辺の医療現場は「もう1つの余裕もない」(14日本紙)というのが実情だ。すでに働き盛りの在宅療養患者の死亡が連日、伝えられている。この状況がさらに悪化することは間違いない。

病气や自然災害によるけがは制御できないが、パラリンピックは制御可能だ。大会を開催し、その代償として失われる多くの命に対し、一体、誰が責任をとるのか。首相がいう「国民の命を守る、これが政府の最大の責務」ならば、今こそ開催をやめる英断を下してもらいたい。